

第2号議案 2003年度事業報告に関する件

1. 学術集会、学術講演会等の開催

1) 年次学術集会

日時：2003年5月28日（木）～31日（土）、場所：パシフィコ横浜。テーマ：いかにして麻酔の質を向上させるか？～Quality assurance, global standard, EBMを考える～。参加者数は、学術集会が5,555名、50周年記念講演およびシンポジウムへの一般市民の参加者数は2,000名であった。一般演題応募総数1200演題のうち1050演題採用であり、採択率85%であった。大会企画プログラムは会長講演1、招待講演23、指名講演32、シンポジウム5、パネルディスカッション9、ワークショップ6、ディベート6、ランチョンセミナー33、サテライトシンポジウム3、ブランチセミナー1、特別企画として広報委員会医学生招待企画、WFSA ミニレクチャー、日本麻酔科学会賞受賞講演（山村記念賞、若手研究者奨励賞）、安全委員会企画招待講演、CCS ミニレクチャー、麻酔台帳の説明会、新認定制度ワークショップ、救急救命士の業務拡大における日本麻酔科学会の取り組みについて、日韓シンポジウム、AED講習会、50周年記念式典・市民公開講演・市民公開講座、リフレッシュャーコースを行った。

2) 支部の学術集会

各支部で合計9回の学術集会が開催された。

- | | | |
|---------------------------------|---------------|-----------------|
| ・ 第51回北海道地区学術集会（主催：並木昭義） | 2003年9月20日（土） | 札幌コンベンションセンター |
| ・ 第60回東北地区学術集会（主催：村川雅洋） | 2003年9月6日（土） | 福島テルサ |
| ・ 第43回関東甲信越・東京支部合同学術集会（主催：増田純一） | 2003年9月20日（土） | 大田区民ホールアブリコ |
| ・ 第94回東海地区学術集会（主催：岡崎 敦） | 2004年2月14日（土） | 東レ総合研修センター |
| ・ 第73回北陸地区学術集会（主催：山本 健） | 2003年8月31日（日） | 金沢大学医学部附属病院 |
| ・ 第74回北陸地区学術集会（主催：山本 健） | 2004年3月8日（日） | 金沢大学医学部附属病院 |
| ・ 第49回関西支部学術集会（主催：北村征二） | 2003年9月6日（土） | 大阪国際交流センター |
| ・ 第40回中国・四国支部学術集会（主催：石部裕一） | 2003年9月27日（土） | 米子コンベンションセンター |
| ・ 第41回九州支部学術集会（主催：佐多竹良） | 2003年9月27日（土） | 産業医科大学ラマツィーニホール |

3) 教育講演の開催

第2回リフレッシュャーコースとして2003年5月31日（土）、パシフィコ横浜アネックスホールにて開催した。危機管理、麻酔の安全、痛み・ペインクリニック、循環系、呼吸器系、特殊麻酔の5コース3講座で、参加者数1,163名、テキスト購入者数186名であった。

2. 学会誌その他の刊行物の発行

1) 学会誌

「Journal of Anesthesia」誌を季刊で4号（Vol.17-No.2～Vol.18-No.1）を発行した。

2) 準学会誌

「麻酔」誌を月間で12号（Vol.51-No.4～Vol.52-No.3）を発行した。

3) 学会ニュースレター

社団法人日本麻酔科学会ニュースレターを季刊で4号（Vol.11-No.2～Vol.12-No.1）を発行した。

4) 学術集会抄録およびプログラム

社団法人日本麻酔科学会第51回学術集会抄録集（CD-ROM）およびプログラム号を発行した。

5) 会員名簿および年報

2003年度会員名簿および年報を会員専用ホームページに掲載した。

6) 教育講演テキスト

2003年5月31日開催の第3回リフレッシュャーコーステキストを発行した。

7) 生涯教育ハンドブック

2003年度から段階的に施行される新認定制度に伴い、新制度に必要な全ての書類と資料がまとまった生涯教育ハンドブックを発行し、会員全員に配布した。

8) 麻酔科医倫理綱領

麻酔科医のための倫理指針を示す「麻酔科医倫理綱領」を発行し、ホームページに掲載するとともに、認定病院、関係団体に配布した

9) 日本麻酔科学会版 麻酔器の始業点検・定期点検指針

日本医用機器工業会から出版されていた「麻酔器の始業点検・定期点検指針」を見直し、学会のオリジナル版として発行し、ホームページに掲載するとともに、認定病院、関係団体に配布した

3. 学会認定医等の認定

1) 認定医等の新規認定、資格試験の実施

<新規認定医>

2003年度は、標榜医の審査時期にあわせて、2003年10月・2004年1月の計2回認定審査を行い、2003年度新規認定認定医審査合格者数は50名となった。

第1回申請者：30名 合格者：30名（2003年10月1日認定）

第2回申請者：20名 合格者：20名（2004年1月1日認定）

<新規専門医>

2003年10月3日～5日、神戸ポートピアホテルにて第42回麻酔科専門医認定試験が実施された。2003年度新規認定専門医試験合格者数は285名となった。

筆記試験受験者数：224名 合格者数：186名 合格率：86.5%

口頭・実地受験者数：208名 合格者数：190名 合格率：91.7%

同時試験受験者数：129名 合格者数：95名 合格率：77.8%

<新規認定病院>

2003年度は、申請状況に応じて4回認定審査を行い、2003年度新規認定病院数は45施設となった。

第1回申請施設：7施設 合格施設：7施設

第2回申請施設：3施設 合格施設：3施設

第3回申請施設：20施設 合格施設：20施設

第4回申請施設：15施設 合格施設：15施設

2) 認定医等の資格更新審査

2004年1月29日、事務局にて2004年4月1日麻酔科専門医更新予定者および麻酔科認定病院更新予定施設の審査会が開催された。2003年4月1日麻酔指導医更新予定者は521名となった。

第1回更新予定者：267名

第2回更新予定者：254名

特例申請者 : 16名
辞退者(不合格者): 5名
未提出者 : 2名

2003年4月1日麻酔指導病院更新予定施設は55施設の内、4施設が辞退し、51施設となった。

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰

社団法人日本麻酔科学会学会賞3賞(山村記念賞・社会賞・若手奨励賞)の2003年度受賞予定者の選考を行い、以下のとおり決定した。

1) 山村記念賞

木下博之(和歌山県立医科大学麻酔科学教室)

「血管におけるATP感受性カリウムチャネルの役割と麻酔薬作用」

2) 社会賞

自動血圧計開発プロジェクトチーム 代表: 篠田昌幸(元日本コーリン)

「オシロメトリック式自動血圧計の開発」

3) 若手奨励賞

(基礎)

有馬一(岡崎市民病院麻酔科)

「Hyperosmolar Mannitol Stimulates Expression of Aquaporin 4 and 9 through a p38 Mitogen Activated Protein Kinase-Dependent Pathway in Rat Astrocytes」

(臨床)

橘一也(国立循環器病センター 外科系集中治療科)

「Noninvasive cardiac output measurement using partial CO₂ rebreathing is less accurate at settings of reduced minute ventilation and when spontaneous breathing is present」

5. 研究及び調査の実施

1) 麻酔関連偶発症例調査

麻酔科認定病院862施設を対象に行い、705施設から回答があり、回答率81.8%であった。

麻酔関連偶発症例調査2001の解析発表完了。麻酔関連偶発症例調査2002の一部の解析結果発表。

麻酔関連偶発症例調査2003の調査実施。麻酔台帳による麻酔偶発症例調査2004の計画を立案した。

これまでのデータから、最多である偶発症例の「大出血」と「麻酔関連薬剤の誤投与」について追加調査を行った。

2) 麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合、あるいは規格そのものに問題がある機器に関して常時窓口を設け、ホームページを通じて常に情報を収集し、即時にフィードバックした。また、よりホームページの検索を平易にするために改良した。

3) 麻酔関連機器 JIS 規格に関する検討

「日本麻酔科学会版 麻酔器の始業点検 定期点検指針」を作成し、認定病院および関連団体に配布し、周知徹底した。

「ISO9703-1 Anesthesia and respiratory care alarm signals-Part 1: Guidance on application of

alarms」が翻訳を完了した。

「IS09703-2 Anesthesia and respiratory care alarm signals-Part 2 : Guidance on application of alarms」は翻訳中である。

4) 麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関するガイドライン作成

昨年発行したガイドラインの改訂作業を行い、会員からのアンケート調査を元に新たに適正使用とすべき薬剤などを加えた。

早期保険適応を実現すべくエフェドリンの使用方法に関してアンケート調査を行った。

「選定療養及び特定療養費に係る厚生労働大臣が定める医薬品等」の制定に伴う実施上の留意事項一部改正におけるインフォームドコンセントの書式モデルの作成を行った。

6) Closed Claims Study の推進と研究

学会が団体契約する医師賠償責任保険の請負会社である損保ジャパン社の協力のもと、過去 30 年にさかのぼって、会員が関連している麻酔関連医療事故について、事故発生のタイミングやヒューマンエラーの要因などの項目別に調査を行った。

7) 麻酔科医マンパワー調査の実施

昨年度に引き続き、日本労働科学研究所の協力のもと、麻酔科医の労働配置や配分、勤務実態、関係領域への進出等につき、会員の年齢や施設、性別などの区分から無作為に抽出した会員を対象に個人調査を行った。

8) 肺塞栓症、肺血栓症に関する調査の実施

わが国における肺塞栓症、肺血栓症の発生状況、予防法、治療法等に関して現状を把握するために、日本麻酔科学会認定病院 844 施設において、2002 年度の周術期肺血栓塞栓症（以下 PTE）に関するアンケート調査を行った。結果として、467 施設から返信(55.3%)、そのうちの 208 施設(44.5%)で 369 例の周術期 PTE 発症を認めた。発症率は 4.41 人（1 万症例対）であった。この結果を一部麻酔科学会ホームページに掲載し、さらに臨床麻酔学会、肺塞栓症研究会、血栓止血学会等で発表した。

昨年末、本会が調査したデータ結果を踏まえたガイドラインが、本会からも代表者を派遣した研究会から公表された。

9) アジア・中近東地域を中心とする留学生の受け入れ状況調査

2004 年度学術集会における WFSA 理事 Gurman 氏（イスラエル）のシンポジウムに先立ち、社員を対象に、各施設の主にアジア・中近東地区からの留学生の受け入れと、これらの国々への講師の派遣について実態調査を行った。回答総数 34 名のうち該当なしによる無回答 13 名、純回答 21 名であった。教育支援などの人的派遣は、アジアを中心に行なわれている。留学生の受け入れは中国からが多く見られた。また、援助形態としては、JICA などの支援団体を通じた形となった。援助内容としては麻酔実施、指導などが多かった。

6. 関連学術団体との連絡及び協力

1) 登録・派遣

日本学術会議,日本医師会,日本医学会,厚生労働省医道審議会標榜医審査会,有限責任中間法人日本専門医認定機構,大学評価・学位授与機構,日本外科学会,外科系医学会社会保険委員会連合,救急医療財団,日本蘇生協議会,3学会合同呼吸療法士認定委員会,臨床工学関連問題検討委員会,医療機能評価機構,

骨髄移植推進財団等に委員を派遣し、各々の目的と事業に合わせ連携・協力を深めた。

2) 各種学術集会協賛・後援

日本学術会議シンポジウム、日本臨床麻酔学会市民公開講座、社団法人日本 ME 学会 ME 技術講習会・検定、財団法人日本救急医療財団「救急の日 2002」等、バイオメディカルファジィシステム学会学術集会等、関連協力団体の学術集会および講習会、市民公開講座等を協賛・後援した。

7. 国際的な研究協力の推進

1) 世界麻酔学会

世界麻酔学会理事および各種委員会委員を派遣している。2012 年度世界麻酔学会誘致活動を行った。

2) アジア・オーストラレイシア麻酔学会

会計理事を派遣している。昨年度決定した、2010 年日本大会にむけて、会場下見、予算の概算、開催形式などの検討を始めている。

3) 英国留学奨励

2003 年度英国留学希望者を通年に渡り募集したが、応募者がいなかった。

4) 日韓シンポジウム

2003 年 5 月 31 日、第 18 回日韓シンポジウムを開催した。003 年 5 月 30 日(9 時～15 時 於パシフィコ横浜)にて開催。シンポジウム 4 題、一般演題 12 題、ランチオン 1 題、日本側の発表演題 9 題、韓国 8 題、事前登録 13 名の内、当日出席者は 6 名のみであった。

8. 普及啓発活動

市民公開講座を 10 回開催し、正しい麻酔科学と医療の普及啓発を行った。

1) 学術大会開催時

50 周年記念事業の一環として市民公開記念講演およびシンポジウムを開催した。参加者総数は 2,000 名であった。記念講演ではノーベル賞作家であり、生命倫理に深い造詣を持つ大江健三郎氏が、文学の世界を通じてみる医療全般のあり方について自身の体験と育児を中心に講演した。シンポジウムでは、様々な政策に参加し、メディアでも活躍中の猪瀬直樹氏を迎え、麻酔科医の役割と重要性、社会からのニーズとは何かについてシンポジウムを行った。

2) 「麻酔の日 2003」

市民公開講座「身近な麻酔」を 10 月 10 日、11 日の 2 日間にわたって新宿 NS ビルにて開催した。麻酔科医の役割、麻酔の歴史、当学会の活動内容を説明したパネルの展示、アナウンサーの小川千鶴子氏を司会として招き手術時の麻酔の様子を麻酔科医とともに解説する「オペステージ」、日本医大の会員を中心としたドラマ仕立ての「蘇生体験」および在京の若手会員と理事をインストラクターとして「蘇生実習」を行った。各企業による麻酔関連機器の展示を行った「機器展示」、一般市民からの麻酔関連の質問に麻酔科医が答える「麻酔の相談窓口」の 4 つの企画に絞り実施をした。参加者数は 3,000 名を超えた。

3) 各支部学術集会開催時

各支部学術集会開催時、「麻酔」をテーマに計 9 回の市民公開講座が開催された。

9. その他目的を達成するために必要な事業

各種委員会活動を通じて事業目的を達成した。各委員会とも事業内容によって、実務を執行する専門部会を組織し、積極的な事業展開に努めた。詳細は各委員会議事録を参照。

1) 総務委員会

本年度は昨年に引き続き、医療制度改革において、救急救命士への教育のあり方など、麻酔科領域にかかわる諸政策に参画すべく、関連省庁、関連団体との折衝を中心に活動を行った。昨年度からの課題である中期・長期計画の作成に向けたマニュアルの検討や実務ワーキンググループの組織などを行った。その他、2003年11月の文部科学省実地審査の指導に基づいた会則の一部変更および懲罰規定原案作成、副会長選挙、支部事業運営および会計方法などの統一化等、学会内部の総務にかかわる事項も審議・執行した。

将来構想検討専門部会では、マンパワーの調査が終了し、このデータを参考に、今後の中・長期計画への反映を検討した。また、医師の労働者派遣の認可について、厚生労働省、民間の業者の状況に関して島田委員長、武田部会長がヒアリングを行った。今後は省庁関連の情報収集、情勢を見守りつつ、必要に応じて対応していくこととなった。

社会保険専門部会では、本年度外保連診療報酬要望書を作成した。改正の要望として麻酔科専門医による麻酔を患者リスク麻酔法による加算を申請、新規の要望として、手術後疼痛管理料、内視鏡下硬膜外癒着剥離術、人工肺を用いないOFF Pump手術を申請した。材料の要望は、人工鼻を申請した。処置委員会では、ブロックについて検討されるため、当部会より、羽尻、細川の2名を派遣。来年度よりペインクリニック学会からも委員が派遣されることになるため、細川部会員はペインクリニックの代表となる。また、2003年10月6日付、厚生労働省保険局医療課に麻酔管理料について要望書を提出した。第51回学術集会時に保険診療上の説明、相談についてブース企画を立案。

2) 財務委員会

予算・決算に関する事項、資産の管理・運営に関する事項、各種事業費に関する事項、その他財務に関する事項について協議、答申、執行した

- ・ 予算書・決算書の作成
- ・ 貸借対照表・財産目録・正味財産増減計算書の作成
- ・ 事業費・管理費のバランスのチェック
- ・ 支部会収支計算書と事業報告のチェック
- ・ 基金・引当金の設定と管理
 - ： 専門医試験実地基金、代議員等選出管理費引当金、国際学会開催基金、学会賞基金、日韓シンポジウム開催基金
- ・ 文部科学省実地審査指導に基づく会計方式の導入（連結決算表や基本金の扱い等）と支部への徹底
- ・ 支部運営補助金ならびに支部市民公開講座運営補助金の返金依頼と廃止

3) 学術委員会

機関誌の編集・発行、学会賞の管理・運営、学術集会の運営に関する事項を協議した。

- ・ 機関誌 Journal of Anesthesia 誌を編集、発行した。2003年6月にはMEDLINEへの掲載が決定し、更なる内容の充実と国際化、Advisory Board Memberの大幅な増強、Guide for Authorsの大幅な改定、On-line閲覧法の充実をはかった
- ・ 学会賞に関して、資格、基準、応募日程と応募方法を再検討して会員に告示した。応募者を審査し受賞者候補を理事会に答申した。また、那賀町教育委員会「青洲の里頭彰会」の協賛で、優れた臨

床研究に対して授与される「華岡青洲賞」を新たに設置することとなった。

- ・ 太城委員が、麻酔科学用語集に関する質疑を取りまとめて、ホームページに掲載することとなった
- ・ 2006年度学術集会開催にむけ、学会事務局（東京）と学術集会事務局（担当校）の運営取り決めを行った。
- ・ 学術集会抄録のペーパーレス化に向け、オンライン査読ならびに、抄録ダウンロードの仕組みを作成することとした。HP管理専門部会と合同で抄録ソフト作成ワーキンググループを立ち上げ、2004年度学術集会より運用することとなった

4) 倫理委員会

麻酔科関連領域の医学・医療の倫理に関する事項を検討した。

- ・ 「麻酔科医倫理綱領」の周知徹底
- ・ 異状死の取り扱い、診療行為に関連した死亡・傷害についての検討
- ・ 昭和大学藤が丘病院麻酔科助手の不祥事、筑波大学麻酔科研修医の不祥事、武田総合病院の不祥事に関する調査について、倫理特別審議会を結成し、会員への懲罰も含めて審議を行った。
- ・ 日本医師会倫理規程の検討
- ・ 症例報告に関する患者プライバシー保護に関する指針の検討
- ・ たばこ産業との関係についてのアンケート回答

5) 教育委員会

本年度は、第2回総会で承認された認定制度の段階的施行の第1段階として、認定医および認定病院に関する認定制度を実施した。次年度は専門医および指導医制度が開始されるため、円滑に制度移行を目指し、すべての資格に必要な書類と資料を盛り込んだ「生涯教育ハンドブック」を作成し、会員全員に配布した。

認定審査専門部会では、第42回麻酔科専門医試験を実施した。問題作成にあたっては、一昨年データベース化された過去問題のブラッシュアップを行った。また、新作問題および新作状況設定問題を認定病院の代表専門医に依頼し、およそ1,500問のデータベースを作成した。

リフレッシャーコース2003（第50回学術集会開催時：2003年5月29日）の運営およびリフレッシャーコース2004（第51回学術集会開催時：2004年5月29日）の企画・広報、テキスト作成を行った。

6) 安全委員会

麻酔関連のリスクマネジメントに関する事項について協議、答申、執行した。また今年度は手術室安全対策部会から偶発症例調査部会を独立させ「偶発症例調査」と「手術室での安全対策」の2大事業についてより一層力をいれて活動を行なっていく方針が決定した。また多角的な安全事業を展開していくために、合同部会を開催し部会間での意思疎通を図り、積極的な意見を交換していくこととなった。

手術室安全対策部会は、他科の医師や手術室内の看護師をはじめとするコメディカルスタッフとの連携を含めたトータルな安全対策を検討する。まずは、火事や地震などの災害時における手術室内のリスクマネジメント指針を作成することとなった。

偶発症例調査専門部会は、偶発症例調査2001～2002の解析報告、2003の実施、麻酔台帳を使用した2004に関する検討、偶発症例調査の広報活動、偶発症例原因として最も多かった出血と誤投薬に関する追跡調査を行った。

麻酔関連機器 JIS 規格専門部会では麻酔関連器機の JIS 規格翻訳作業と、「日本麻酔科学会版 麻酔

器の始業点検 定期点検指針」の出版と周知徹底を行った

医療事故専門部会では、CCS事業を多角的に展開した。インシデントレポートの収集とホームページを通じた対応策の公開、第50回学術集会開催時、ASAのCCS事業担当者チェイニー氏による講演会およびワークショップの開催、損保ジャパンの協力による過去30年間の会員による医療事故の調査、2002年度医療事故審査会の開催を行った。

薬剤対策専門部会は、麻酔関連の医薬品等を適正に使用するためのガイドラインの改訂作業、エフェドリンの早期保険適用のためのアンケート調査、「選定療養及び特定療養費に係る厚生労働大臣が定める医薬品等」の制定に伴う実施上の留意事項一部改正におけるインフォームドコンセントの書式モデルの作成を行った。

その他、ワーキンググループとして、肺塞栓血栓症ガイドライン作成ワーキンググループ、医療事故防止に対する具体的な方策の提案ワーキンググループ、急速輸血装置事故対策ワーキンググループなど、テーマごとに特化した実務チームを結成して各事業を推進した。

7) 交流委員会

国内外の諸団体との交流を促進する目的に沿って事業を行った。国際交流専門部会においては、2012年WCAの誘致活動として、WFSA理事を横浜にて開催された2003年度学術集会に招待し、横浜開催会場視察を行った。同学術集会では日韓麻酔シンポジウムを開催したが、参加者は少なかった。今後は韓国も包括したアジアン・シンポジウムの開催を目指す。その他、204年度学術集会のDr.Gurmanのシンポジウムに向けて、代議員を対象とした国際医療協力に関するアンケート調査を行った。

救急医療対策専門部会においては、第50回学術集会時にAED講習会を開催し、インストラクター16名、受講者36名。インストラクター、受講生ともに証明書を発行した。ACLS講習会は各支部学術集会時に実施。AHAプロバイダーコースマニュアルをもとに各地域で実施。NPO日本ACLS協会の全面的な協力により、各支部代表である部会員が中心となって運営した。全8支部のうち5支部は、本学会とNPO日本ACLS協会の共催、残り3支部は日本救急医学会をはじめとする他団体と共催形式で開催した。

また、アメリカニュージャージー州フィリップスバーグにて、AHAのACLSインストラクター資格取得のため、2名の部会員(田勢、漢那)を派遣し合格した。2名はAHA公認のプロバイダーコース(Japan ITO-AHA BLS and ACLS Provider Course)のインストラクターとして活動し、今後はインストラクターが養成できるコースディレクターを目指す。日本麻酔科学会、日本救急医学会、日本循環器学会の3者間で、AHA-ACLSと同程度の統一カリキュラム、コース確立にむけて実務者会議を開催し、協調する方針を確認した。

8) 広報委員会

一般市民に対する広報活動としての継続した市民講座の開催、ニュースレターの編集・発行に関する事項、ホームページの運営等に関わる事項等の協議、答申、執行を行った。

公益事業推進専門部会では、市民公開講座「麻酔の日2003」を企画・運営し、10月9日～10日、新宿NSビルにて開催した。一般市民約3,000名が参加した。

ホームページ管理専門部会では、ホームページのより一層の充実を目指し、コンテンツを作成した。会員に対しては日本麻酔科学会の概要、定款、理事名簿、緊急報告事項、各種募集、他の機関・学会からの通知を含めた学会内部に関わる情報をより迅速に、即時性を主眼に提供をできるようにした。また、会員専用サイトを立ち上げ、医薬品ガイドライン、新認定制度情報ならびに救急救命士気管挿管実習に関する問題等を逐次告知した。一般市民に対しては麻酔の啓発、市民公開講座開催のお知らせ

せ、麻酔認定病院の一覧等の情報提供をめざした。

ニュースレター編集専門部会では、年間4回の「ニュースレター」の編集と発行を行った。

発行した「ニュースレター」は第11巻2号から12巻1号である。経費削減および情報の即時性をめざし、従来の業者による校正・印刷ではなくタブロイド版の独自発行について検討した。

その他、ワーキンググループとして、学術集会学生招待企画ワーキンググループ、麻酔啓発用小冊子ワーキンググループなど、テーマごとに特化した実務チームを結成して各事業を推進した。

9) 50周年記念事業関連委員会

50周年記念事業に関連して、50周年記念史編集委員会を開催し、各担当者に分けて執筆依頼、原稿収集等を行った。50周年記念式典等の事業を企画、運営した。

以 上

2003年度 北海道・東北支部 年間事業報告書

事業内容	2003年度 (2003. 4. 1～2004. 3. 31)
<p>学術集会、学術講演等の開催</p>	<p>1. 年次総会 日 時：2003年5月28日（水） 場 所：横浜</p> <p>2. 年次学術集会 北海道地区 会長名：並木 昭義 日 時：2003年9月20日（土） 場 所：札幌コンベンションセンター</p> <p>東北地区 会長名：村川 雅洋 日 時：2003年9月6日（土） 場 所：福島テルサ（福島市）</p> <p>3. ACLS講習会 北海道地区 日 時：2003年9月21日（日）・27（土） 会 場：札幌医科大学</p> <p>東北地区 日 時：2003年9月7日（日） 会 場：福島市社会福祉センター</p>
<p>学会誌、その他の刊行物の発行</p>	<p>1. 学会誌の発行 なし</p> <p>2. 会員名簿の発行 なし</p> <p>3. 学術集会抄録集の発行 あり</p> <p>4. ニュースレター等の発行 なし</p> <p>5. 年報等の発行 なし</p>

2003 年度 東京支部 事業報告書

事業内容	2003 年度(2003.4.1～2004.3.31)
学術集会、学術講演会等の開催	<p>1.年次総会日時:2003年5月28日 場所:パシフィコ横浜 2003年9月19日 場所:大森東急イン</p> <p>2.年次学術集会 会長名:増田 純一 日時:2003年9月20日 場所:大田区民ホール・アプリコ、三井ガーデンホテル蒲田 参加者数: 210名 テーマ:からだところを侵襲から守る</p> <p>3.教育講演の開催日時:2003 年 9 月 20 日 場所:三井ガーデンホテル蒲田</p>
学会誌その他の刊行物の発行	<p>1.学会誌の発行の有無 無</p> <p>2.会員名簿の発行 無</p> <p>3.学術集会抄録集の発行の有無 有 発行部数:1375 部</p> <p>4.ニュースレター等の発行の有無 無</p> <p>5.年報等の発行の有無 無</p>
学会認定医の認定	<p>1. 認定医等の資格試験の実施の有無 無</p> <p>2. 認定医等の資格更新審査の有無 無</p>
研究の奨励及び研究業績等の表彰	無
研究及び調査の実施	無
関連学会との連携及び協力	無
国際的な協力の推進	無
普及啓発活動	<p>1.市民公開講座開催 日時:2003 年 9 月 20 日 場所: 大田区民ホール・アプリコ 参加者数:200 名(含 関東甲信越支部) テーマ:無痛分娩てなに?</p> <p>2、社団法人日本麻酔科学会主催の市民公開講座に協力 日時:2003 年 10 月 4～5 日 場所:新宿 NSビル</p>
その他目的を達するために必要な事業	<p>1、ACLS 講習会 日時:2003 年 9 月 21 日 場所:慶応大学 参加者数:30 名</p> <p>2、社団法人日本麻酔科学会第 2 回ホームページ管理専門部会 日時:2003 年 10 月 24 日 場所:下関海峡メッセ</p>

2003 年度(社)日本麻酔科学会東海・北陸支部 事業報告書

事業内容	2003 年度 (2003. 4. 1~2004. 3. 31)
<p>学術集会、学術講演会等の開催</p>	<p>1. 支部総会 (支部総会) 日時：2003 年 5 月 28 日 場所：パシフィコ横浜 第 10 会場 支部長：福田 悟</p> <p>2. 年次学術集会 <東海地区> 会長名：岡崎 敦 日時：2004 年 2 月 14 日 場所：三島市東レ総合研修センター テーマ：「日々の麻酔臨床に磨きをかける」</p> <p><北陸地区> 会長名：山本 健 日時：2003 年 8 月 31 日 日時：2004 年 3 月 7 日 場所：金沢大学医学部附属病院 テーマ：設定せず</p> <p>3. ACLS 講習会 <東海地区> 会長名：岡崎 敦 日時：2004 年 2 月 15 日 場所：三島市東レ総合研修センター</p> <p><北陸地区> 会長名：山本 健 日時：2003 年 11 月 16 日 場所：金沢大学医学部附属病院</p>
<p>学会誌その他の刊行物の発行</p>	<p><東海地区> 1. 学術集会抄録集の発行 発行部数：1000 部 2. 会員名簿の発行 発行部数：1000 部</p> <p><北陸地区> 1. 学会誌の発行 発行部数：500 部 誌名：「北陸麻酔学雑誌第 37 巻」</p>
<p>普及啓発活動</p>	<p>1. 市民公開講座開催 日 時：2004 年 3 月 6 日 場 所：石川県教育会館 テーマ：「救急医療」と「痛みの治療」</p>

2003年度(社)日本麻酔科学会関西支部 事業報告書

事業内容	2003年度(2003年4月1日～2004年3月31日)
<p>学術集会、学術講演等の開催</p>	<p>1. 年次学術集会総会 日時:2003年9月6日(土) 場所:大阪国際交流センター 会長:北村 征治(大阪府立母子保健総合医療センター)</p> <p>2. 学術講演 日時:2003年11月29日(土) 演者:藤永 雅彦先生(大阪医科大学 麻酔科学教室) 演題:笑気の催奇性のメカニズム 場所:大阪医科大学 臨床第一講堂 所属:学術</p> <p>3. 症例検討会(マンスリー) 日時:2003年6月7日(土) 場所:大阪医科大学臨床第一講堂 2003年11月29日(土) 場所:大阪医科大学臨床第一講堂 2004年3月13日(土) 場所:大阪市立大学文化交流センター 所属:学術</p>
<p>学会誌その他の刊行物の発行</p>	<p>1. 学会誌発行の有無: 無し</p> <p>2. 会員名簿の発行: 無し</p> <p>3. 学術集会抄録集の発行の有無: 有り 会長:北村 征治(大阪府立母子保健総合医療センター)</p> <p>4. ニュースレター等の発行の有無: 有り 「近畿麻酔科医界」発行・・・2003年7月, 2004年3月 所属:広報</p> <p>5. 年報等の発行の有無: 無し</p>
<p>学会認定医等の認定</p>	<p>1. 認定医等の資格試験の実施の試験: 無し</p> <p>2. 認定医等の資格更新審査の有無: 無し</p>
<p>研究の奨励及び研究実績等の表彰</p>	<p>無し</p>
<p>研究及び調査の実施</p>	<p>無し</p>
<p>関連学会との連帯及び協力</p>	<p>無し</p>
<p>国際的な研究協力の推進</p>	<p>無し</p>
<p>普及啓発活動</p>	<p>1. 市民公開講座開催 日時:2003年10月25日(土) 場所:堂島アバンザ 「手術の安全を守る麻酔展」 会長:北村 征治(大阪府立母子保健総合医療センター)</p> <p>2. 麻酔説明用CD作成 「夢に向かってー麻酔科医の役割編ー」 「手術を受けるあなたへ安心へのメッセージー手術前患者説明編ー」 所属:広報</p>
<p>その他目的を達成するために必要な事業</p>	<p>特になし</p>

2003年度 日本麻酔科学会中国四国支部 事業報告書

事業内容	2003年度(2003.4.1～2004.3.31)
<p>学術集会, 学術講演会等の開催</p>	<p>1.年次総会 日時:2003年9月20日(土) 場所:米子コンベンションセンター</p> <p>2.年次学術集会・教育講演の開催 会長:石部裕一 鳥取大学教授 日時:2003年9月21日(日) 場所:米子コンベンションセンター 参加者数:173名</p> <p>3.リフレッシュャーコースの開催 会長:石部裕一 鳥取大学教授 日時:2003年9月21日(日) 場所:米子コンベンションセンター 参加者数:48名</p>
<p>学術誌その他の刊行物の発行</p>	<p>1.学会誌発行の有無:無</p> <p>2.会員名簿の発行の有無:有</p> <p>3.学術集会抄録集の発行の有無:有 発行部数:1200部</p> <p>4.ニュースレター等の発行の有無:無</p> <p>5.年報等の発行の有無:無</p>
<p>学会認定医等の認定</p>	<p>1.認定医等の資格試験の実施の有無:無</p> <p>2.認定医等の資格更新審査の実施の有無:無</p>
<p>普及啓発活動</p>	<p>1.市民公開講座の開催 日時:2003年9月21日(日) 場所:鳥取大学医学部附属病院手術部 参加者数:161名</p> <p>2.麻酔の日の記念行事 日時:2003年10月18日(土) 場所:広島市東区民文化センター大ホール 参加者数:60名</p>

2003 年度 九州支部年間事業報告書

事業内容	2003 年度 (2003.4.1～2004.3.31)
学術集会、学術講演等の開催	<p>1.年次総会(支部総会) 日時：2003 年 4 月 12 日(土) 場所：九州大学医学部百年講堂</p> <p>2.年次学術集会 日時：2003 年 9 月 27 日(土) 場所：ラマツィーニホール(産業医科大学内)(参加者 348 名)</p> <p>3.教育講演の開催 (夏期セミナー) 日時：2003 年 8 月 2 日(土) 場所：北九州国際会議場(北九州市小倉北区)(参加者 135 名)</p> <p>4.ACLS 講習会 日時：2003 年 9 月 27 日(土) 場所：ラマツィーニホール(産業医科大学内)(参加者 36 名)</p>
学会誌その他の刊行物の発行	<p>1.学会誌の発行の有無：無</p> <p>2.会員名簿の発行：年報に記載</p> <p>3.学術集会抄録集の発行の有無：有(発行部数：1300 部)</p> <p>4.ニュースレター等の発行の有無：無</p> <p>5.年報等の発行の有無：有(発行部数：1200 部印刷中)</p>
学会認定医等の認定	<p>1.認定医等の資格試験の実施：無</p> <p>2.認定医等の資格更新審査の有無：無</p>
研究の奨励及び研究業績等の表彰	無し
研究及び調査の実施	麻酔関連偶発症例調査の実施の呼びかけ
関連学会との連携及び協力	九州疼痛学会
国際的な研究協力の推進	無し
普及啓発活動	<p>1.市民公開講座開催 日時：2003 年 9 月 27 日(土) 15:15-16:15 場所：ラマツィーニホール(産業医科大学内)(参加者 348 名) テーマ：痛みからの解放をめざして</p> <p>2.新聞広告 月日：2003 年 4 月 2 日 場所：朝日新聞朝刊 テーマ：麻酔科医があなたの命を守ります</p>
その他目的を達成するために必要な事業	特に無し